

留学生センターオープンフォーラム

『韓国歌謡史』の構築～音盤に刻まれた歳月を辿り～

浮葉正親

- 【日 時】平成21（2009）年7月12日（日）
13：00～16：00
- 【場 所】留学生センター2F 207講義室
- 【共 催】在日朝鮮人作家を読む会、
早稲田大学ウリ稲門会中部支部
- 【講 師】朴燦鎬氏（韓国大衆音楽研究会会員）
- 【参加者】82名



演があり、その後、韓国の大衆歌謡研究者である李竣熙氏（韓国学中央研究院研究員）からコメント、フロアとの質疑応答が行われた。事前に中日新聞に紹介記事が掲載されたこともあり、参加者82名と盛況であった。

韓国の近現代史は、日本による植民地支配、つかの間の解放から一転、民族分断と内戦、軍事独裁政権による抑圧や民主化への闘いという、激動の歴史である。歌はその時代の記憶を生々しく甦らせるが、大衆歌謡は庶民の心性を知る貴重な資料でありながら、つい最近まで研究者から軽視されてきた。

このフォーラムでは、2009年3月韓国で大著『韓国歌謡史1・2』（韓国語、ソウル、ミジブックス）を刊行した、名古屋在住の朴燦鎬氏（韓国大衆音楽研究会会員）を講師に迎え、在日という立場から、本国では入手困難な資料を掘り起こしつつ、韓国歌謡史の〈闇〉の部分、すなわち植民地時代の軍国歌謡の影響や解放後越北した音楽人との関係についても光を当ててきた、同氏の取り組みについて語っていただくことにした。

当日、朴燦鎬氏の講演「韓国歌謡とともに60年」では、植民地時代から1970年代まで、20数曲の貴重な音源とその曲にまつわるエピソードが紹介された。講演会に続き、休憩をはさんでノリパンによる民俗音楽公

平成21年度 名古屋大学留学生センター オープンフォーラム
「韓国歌謡史」の構築
 ～音盤に刻まれた歳月を辿り～

韓国の近現代史は、日本による植民地支配、つかの間の解放から一転、民族分断と内戦、軍事独裁政権による抑圧や民主化への闘いという、激動の歴史です。歌はその時代の記憶を生々しく甦らせてきます。大衆歌謡は庶民の心性を知る貴重な資料でありながら、つい最近まで研究者から軽視されてきました。

このフォーラムでは、今春韓国で大著『韓国歌謡史1・2』を刊行した、名古屋在住の朴燦鎬氏（韓国大衆音楽研究会会員）を講師に迎え、在日という立場から、本国では入手困難な資料を掘り起こしつつ、韓国歌謡史の〈闇〉の部分、すなわち植民地時代の軍国歌謡の影響や解放後越北した音楽人との関係についても光を当ててきた、同氏の取り組みについて語っていただきます。

- 【日 時】平成21年7月12日（日）13:00～16:00（受付開始12:30）
- 【場 所】名古屋大学留学生センター棟2F 207講義室
- 【共 催】在日朝鮮人作家を読む会、早稲田大学ウリ稲門会中部支部
- 【日 程】12:30 受付開始

13:00 開会、趣旨説明

13:15 講演 「韓国歌謡とともに60年」

講師：朴燦鎬氏（韓国大衆音楽研究会会員）

14:45 休憩

15:00 民族音楽公演：ノリパン

15:30 コメントと応答

16:00 閉会



朴燦鎬氏
（ばく・ちゃんほ）

<プロフィール>
 1943年 名古屋生まれ。
 1966年 早稲田大学文学部卒業。
 在学中に韓学研究会（在日韓学研究会）に加入し、金大中氏政府運動などに参加。
 1977年から1986年まで民権時報社で編集次長、編集長を歴任。
 現在は、政治家に就事する傍ら、韓国政治思想史の調査と研究を続けている。
 著書に『韓国歌謡史1 1894-1945』『韓国歌謡史2 1945-1980』ミジブックス（韓国・ソウル）、『韓国歌謡史1895-1945』晶文社、共訳書に『韓国現代史論』国語社がある。

【問合せ先】名古屋大学留学生センター 〒464-8601 名古屋市中種区不老町
 浮葉正親 Tel: 052-789-5771（研究室） Fax: 052-789-5100
 E-mail: j46084@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp